

ドレス・コード？ ——着る人たちのゲーム

DRESS? CODE
Are You Playing Fashion?

会期：2019年12月8日(日)－2020年2月23日(日)

会場：熊本市現代美術館（熊本市中央区上通町）



京都国立近代美術館 展示風景 © 京都服飾文化研究財団、福永一夫撮影

お問い合わせ

熊本市現代美術館

学芸担当：池澤 広報担当：市下、中川

〒860-0845 熊本市中央区上通町 2-3 びぶれす熊日会館 3階

TEL: 096-278-7500 FAX: 096-359-7892

Email: gamadas@camk.or.jp URL: <https://www.camk.jp/>

展覧会概要

このたび、熊本市現代美術館は2019年12月8日(日)から2020年2月23日(日)まで、「ドレス・コード?—着る人たちのゲーム」展を開催いたします。

服を着るという行為は、私たちが社会生活を送るうえで欠かせない文化的な営みのひとつです。また、ファッションは「着る」だけでなく「見る／視られる」ものです。時代や地域、社会階層の文化や慣習と結びついた暗黙の〈ドレス・コード〉ともいえるさまざまな形の規範やルールが存在し、そこから駆け引きあるいはゲームにも似た自己と他者とのコミュニケーションが生まれています。インターネットとSNSの普及によって、誰もが自らの装いを自由に発信できるようになった現在、私たちとファッションのかかわり方もまた新しい局面を迎えています。

本展では、18世紀の宮廷服や20世紀初頭の紳士服、ストリートカルチャーを吸収した現代服まで、京都服飾文化研究財団(KCI)が収蔵する衣装コレクションから精選した約90点を中心に、写真や映像などのアート作品、さらにはマンガ、映画、演劇といった現代の表現を加え、300点を超える作品で構成。現代における新たな〈ドレス・コード〉、私たちの装いの実践(ゲーム)を見つめ直します。

開催概要

展覧会名	ドレス・コード?—着る人たちのゲーム
会 期	2019年12月8日(日)–2020年2月23日(日)
開館時間	午前10時～午後8時(入場は午後7時30分まで)
休 館 日	火曜日、年末年始(12月29日から1月3日)、2月12日(水) *ただし2月11日(火・祝)は開館
会 場	熊本市現代美術館(熊本市中央区上通町2-3 びぷれす熊日会館3階)
入 場 料	一般1,100(900)円、シニア[65歳以上]900(700)円、学生[高校生以上]600(500)円、中学生以下無料 * ()内は前売り / 20名以上の団体 * 割引の詳細については美術館ウェブサイトをご覧ください
主 催	熊本市現代美術館[熊本市、公益財団法人 熊本市美術文化振興財団]、 公益財団法人 京都服飾文化研究財団、KKT熊本県民テレビ、熊本日日新聞社
特別協力	株式会社ワコール
企画協力	京都国立近代美術館
協 力	KLM オランダ航空、株式会社七彩、熊本パルコ、センクシア株式会社 ヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社
助 成	モンドリアン財団
後 援	熊本県、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本県文化協会、熊本県美術家連盟、 熊本国際観光コンベンション協会、NHK 熊本放送局、J:COM、エフエム熊本、FM791
特設サイト	https://www.kci.or.jp/dc/

本展の見どころ

ファッションを通じて人や社会の関係性を問いかける展覧会

ファッションは、単に流行の服やスタイルを意味するだけではありません。ある時代や地域、社会階層の文化や慣習と結びついた服装全般も含めることができます。そこには、暗黙の〈ドレス・コード〉ともいえるさまざまな形の規範やルールが存在し、しばしば人々の行動や思考にも影響を与えるのです。本展では、そうした服装のコードをめぐる繰り広げられる私たちの装いの実践、着る人とそれを視る人との関係のあり方、さらには衣服を通じて私たちと社会とのつながりについて問い直します。

現代ファッションのさまざまな実例を紹介

学校や職場で制服やスーツを着る、これはわかりやすい服装のコードです。一方で、〈ドレス・コード〉は時に破られたり、置き換えられたり、別のコードが生まれることもあります。トレンチコートやデニムはかつて軍服や労働着でしたが、今ではその用途=コードは失われ、おしゃれのアイテムの一つとなっています。自己表現からあえてコードを逸脱した個性的なファッションに身を包む人もいます。

男性のスーツや制服から、シャネル・スーツなどの普遍性を備えたスタイルやアイテム、グッチやルイ・ヴィトン、コム デ ギャルソン、ヴェトモンといった人気ブランドが手掛ける最新のスタイルまで、現代ファッションに見られるさまざまな装いの実例を紹介します。

着ることの(不)自由さを伝える現代美術作品を多数展示

私たちは、衣服を通じて自分の嗜好や属性を表明することもあれば、コスプレのように別の人格を演じることもできます。着ることは〈何者か〉になる行為といえるでしょう。たとえば森村泰昌が扮する著名人において衣服は重要な役割を担っています。ハンス・エイケルブームによる大量のストリート・スナップはファッションにおける他者へ／からの眼差しを、石内都が撮る古着の写真は着用者の人格や記憶を、それぞれ浮き彫りにします。他にも、現代美術作家による多彩な表現の実践を取り上げ、着ることの意味を深く掘り下げていきます。

キャラクターと服装のかかわりを演劇や映画、マンガを通して考察

服はファッションのみならず、さまざまな分野と広くかかわりあいを持っています。文学や演劇、映画、マンガなどでは、服がキャラクターの性格や行動、感情を表す要素となるなど、物語を進める重要な役割を演じます。そのことは決してフィクションの世界にとどまらず、バーチャルが日常化した現代においても、リアリティを強く感じさせます。映画ポスターの展示のほか、歴史マンガ『イノサン』『イノサン Rouge ルージュ』とのコラボレーションや、演劇カンパニーのマームとジブシー、チェルフィッチュによるインスタレーションなどを通して、服とキャラクターについて考えます。

『イノサン』『イノサン Rouge ルージュ』×KCI コレクション

KCI が収蔵する 18 世紀の衣装を題材に、18 世紀フランス革命の死刑執行人サンソン家を描いた坂本眞一氏のマンガ『イノサン』『イノサン Rouge ルージュ』とのコラボレーションを行います。フランス革命期の衣装と登場人物を通じて、現実と非現実が交差する特別な空間を創造します。



「ドレス・コード？」のキーワード 13

本展は、〈ドレス・コード〉になぞらえたテーマに基づいて構成します。それぞれのテーマを出展品やその解説を手がかりに読み解きながら、ファッション、あるいは「装い」の普遍性や現代的な意味について来場者自身に新たな気づきをもたらすような展示を目指します。

00. 裸で外を歩いてはいけない？



ミケランジェロ・ピストレット
《ぼろきれのヴィーナス》
1967年
豊田市美術館蔵
©Michelangelo Pistoletto

01. 高貴なふるまいをしなければならない？



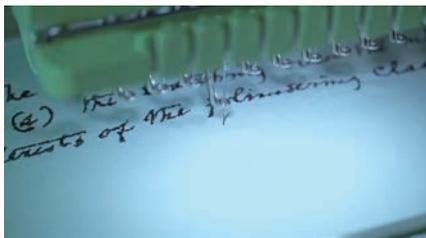
左：坂本眞一／『イノサン』『イノサン Rouge ルージュ』より マリー＝ジョセフ・サンソン／2019年／協力：集英社
右：スーツ(アビ・ア・ラ・フランセーズ)／1790年頃／京都服飾文化研究財団蔵
京都国立近代美術館 展示風景 ©京都服飾文化研究財団、福永一夫撮影

02. 組織のルールを守らなければならない？



左：ロジャース・ビート・カンパニー／スーツ／1900年代
右：ポール・スミス／スーツ／2003年秋冬
共に京都服飾文化研究財団蔵、畠山崇撮影。右は株式会社ジョイックスコーポレーション寄贈

03. 働かざる者、着るべからず？



左：青山悟《The Lonely Labourer》2019年／ビデオ撮影：津田道子 作家蔵／協力：ミヅマアートギャラリー
右：クリスチャン・ディオール(ジョン・ガリアーノ)／ビスチエ／2001年 京都服飾文化研究財団蔵、畠山崇撮影

04. 生き残りをかけて闘わなければならない？



左：ジャン＝ポール・ゴルチエ/浴衣、帯/ 2000 年
 右：ビューティフルピープル(熊切秀典)/コート/ 2017 年秋冬
 共に京都服飾文化研究財団所蔵、畠山崇撮影

05. 見極める眼を持たねばならない？



左：モスキーノ(ジェレミー・スコット)/ドレス、パンツス/ 2017 年春夏
 右：コシエ(クリステル・コースエ)/ドレス/ 2018 年春夏
 共に京都服飾文化研究財団所蔵、畠山崇撮影。左はモスキーノ S.p.A. 寄贈

06. 教養は身につけなければならない？



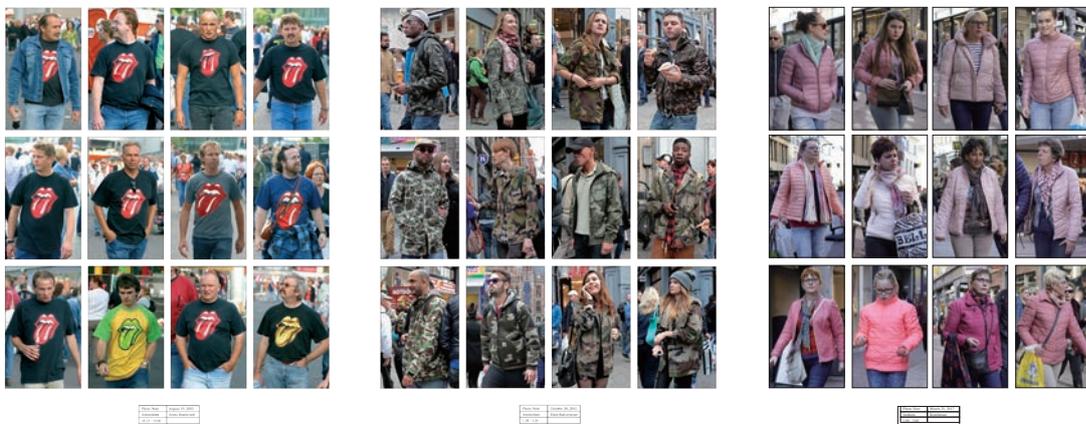
左：イヴ・サンローラン/ドレス/ 1965 年秋冬
 右：ルイ・ヴィトン、ジェフ・クーンズ/バックパック/ 2017 年
 共に京都服飾文化研究財団所蔵、畠山崇撮影。左はイヴ・サンローラン氏寄贈

07. 服は意志を持って選ばなければならない？



左：石内都《Frida by Ishiuchi #2》2012/2016 年 株式会社資生堂蔵
 右：森村泰昌《光るセルフポートレート(女優)/白いマリリン》1996 年
 個人蔵(豊田市美術館寄託)

08. 他人の眼を気にしなければならない？



ハンス・エイケルブーム《フォト・ノート 1992-2019》1992-2019 年 作家蔵

09. 大人の言うことを聞いてはいけない？



左：元田敬三《ツッパルな》2009-2016年 作家蔵／協力：MEM
 右：クリスチャン ダダ(森川マサノリ)／ジャケット、パンツ／2016年春夏
 京都服飾文化研究財団蔵、畠山崇撮影

10. 誰もがファッションナブルである？



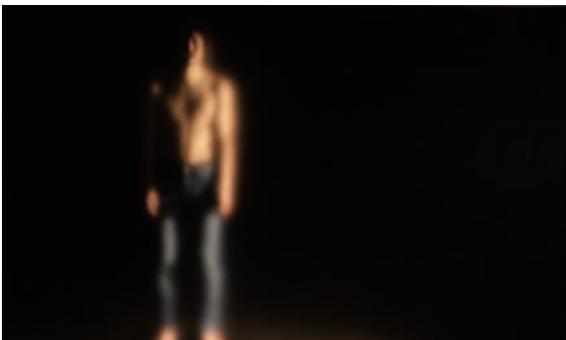
左：グッチ(アレックスサンドロ・ミケーレ)／ジャケット、トップ、スカート、スパッツ、
 ストール、靴／2018年秋冬 京都服飾文化研究財団蔵、畠山崇撮影
 右：都築響一(選)《ニッポンの洋服》2019年より／ラマスキー《異色肌》2017年
 作家蔵

11. ファッションは終わりのないゲームである？



マームとジブシー《ひびの、A to Z》2019年／インクジェットプリント、ビデオ、テキスト、冊子、家具ほか／インスタレーション
 京都国立近代美術館 展示風景 © 京都服飾文化研究財団、福永一夫撮影

12. 与えよ、さらば与えられん？



チェルフィッチュ《The Fiction Over the Curtains》(alternate version 1)
 2017-2018/2019年
 2枚の半透明スクリーンに2チャンネル・ビデオ・リアプロジェクション
 プリコグ蔵

出展アーティスト

ファッション (50 音順) 全 59 ブランド

アシードンクラウド(玉井健太郎)、アライア(アズディン・アライア)、アンダーカバー(高橋盾)、
アンリアルレイジ(森永邦彦)、イヴ・サンローラン(イヴ・サンローラン)、
イッセイミヤケメン(高橋悠介)、インゲボルグ(金子功)、
ヴァレンティノ(ピエールパオロ・ピッチョーリ)、
ヴィクター & ロルフ(ヴィクター・ホルスティング、ロルフ・スノラン)、
ヴェトモン(デムナ・ヴァザリア)、エマニュエル・カーン、ガンリュウ(丸龍文人)、
キャンベルズ・スーパ・カンパニー、グッチ(トム・フォード、アレックスサンドロ・ミケーレ)、
クリスチャン ダダ(森川マサノリ)、
クリスチャン・ディオール(ジョン・ガリアーノ、マリア・グラツィア・キウリ)、
クロード・モンタナ、コシエ(クリステル・コーシエ)、
コム デ ギャルソン(川久保玲)、コム デ ギャルソン オム プリュス(川久保玲)、
コム デ ギャルソン ジュンヤ ワタナベ マン(渡辺淳弥)、サカイ(阿部千登勢)、
シャネル(ガブリエル・シャネル、カール・ラガーフェルド)、ジャン = ポール・ゴルチエ、
ジョルジオ・アルマーニ、ジュンヤ ワタナベ コム デ ギャルソン(渡辺淳弥)、
セディショナリーズ(ヴィヴィアン・ウエストウッド)、タオ コム デ ギャルソン(栗原たお)、
ディオール・オム(エディ・スリマン)、トキオ・クマガイ(熊谷登喜夫)、トム・ブラウン、
ドリス・ヴァン・ノッテン、バーバリー(クリストファー・ベイリー)、ハイ・ブラウズ、
ピエール・カルダン、ビューティフルピープル(熊切秀典)、ファセッタズム(落合宏理)、
フェンディ(カール・ラガーフェルド、シルヴィア・フェンディ)、
ハナエ・モリ・マニユスクリ(天津曇)、ヘルムート・ラング(ヘルムート・ラング)、
ポール・スミス(ポール・スミス)、マーク・ジェイコブス、
マリテ + フランソワ・ジルポー(マリテ・バシエレリー、フランソワ・ジルポー)、
マメ(黒河内真衣子)、マルタン・マルジェラ(マルタン・マルジェラ)、
ミントデザインズ(勝井北斗、八木奈央)、モスキーノ(ジェレミー・スコット)、
ユイマ ナカザト(中里唯馬)、
ユニクロ アンド JW アンダーソン(ジョナサン・ウィリアム・アンダーソン)、
ヨウジヤマモト(山本耀司)、リーバイス、リチャード・ジェームス、リトゥンアフターワーズ(山縣良和)、
ルイ・ヴィトン ジェフ・クーンズ、ルイ・ヴィトン(ニコラ・ジェスキエール)、
ルイ・ヴィトン × シュプリーム(キム・ジョーンズ)、ロジャース・ピート・カンパニー、
ワイズ(山本耀司)、ワトソン ファーガーストローム&ヒューズ

ファッション以外(50 音順)

青山悟、石内都、アンディ・ウォーホル、ハンス・エイケルブーム、坂本眞一、シンディ・シャーマン、
チェルフィッチュ、ローズマリー・トロツケル、都築響一、ミケランジェロ・ピストレット、
マームとジプシー、元田敬三、森村泰昌

関連イベント情報 *下記イベント以外にも様々なイベントを予定しています。

■レクチャー

本展企画者によるレクチャー

日時	2019年12月8日(日) 午後2時～午後3時30分
場所	熊本市現代美術館 ホームギャラリー
講師	石関亮(京都服飾文化研究財団キュレーター)、牧口千夏(京都国立近代美術館主任研究員)
定員	先着100名 *事前申込不要

■ワークショップ:

着せかえ紙人形を使って19世紀のファッション・デザイナーになろう!

19世紀のファッション誌の付録についていた着せかえ紙人形。このドレスの型(白紙)に好きなデザインを描き、色をつけてみましょう!

参加者には「人形1体と帽子類のシート」と「白紙のドレス型のシート」をお渡しします。各自で切り取って制作していただきます。

日時	2020年2月2日(日) 午後1時～午後4時 開催時間中はいつでもお越しください。 *ただし、先着50名までで終了します
場所	熊本市現代美術館 フリースペース
定員	先着50名 *事前申込不要
対象	3歳～大人(未就学児と小学校低学年のお子様には保護者の付き添いが必要です)
参加費	無料
持ち物	不要(ハサミや色鉛筆は会場に準備しています)

■映画上映

月曜ロードショー【特集】映画で観る「ドレス・コード」

日時	会期中 毎週月曜日 午後2時～ / 午後5時～ *ただし①12月9日は 午後2時～ 1回上映のみ
場所	熊本市現代美術館 ホームギャラリー
定員	先着80名 *事前申込不要

上映作品

- ①『ベルサイユのばら—オスカルとアンドレ編—』(宝塚月組公演)
2013年公演 原作:池田理代子、脚本・演出:植田紳爾(156分 *途中休憩あり)
- ②『カサブランカ』1942年 監督:マイケル・カーティス(103分)
- ③『ベニスに死す』1971年 監督:ルキノ・ヴィスコンティ、原作:トーマス・マン(130分)
- ④『君に届け』2010年 監督:熊澤尚人、原作:椎名軽穂(128分)
- ⑤『ランボー 3 怒りのアフガン』1988年 監督:ピーター・マクドナルド(102分)
- ⑥『ミスター・ロンリー』2007年 監督:ハーモニー・コリン(113分)
- ⑦『アウグスト・ザンダー』2002年 監督:ライナー・ホルツェマー(44分)
- ⑧『理由なき反抗』1955年 監督:ニコラス・レイ(111分)
- ⑨『シド アンド ナンシー』1986年 監督:アレックス・コックス(109分)
- ⑩『はなればなれに』1964年 監督:ジャン=リュック・ゴダール、原作:ドロレス・ヒッチェンズ(96分)

関連イベント情報

熊本市現代美術館では、西尾美也のプロジェクト「パブローブ」を2019年12月8日(日)から2020年2月23日(日)（「ドレス・コード？」展会期中）まで実施します。

「パブローブ」とは

西尾美也のプロジェクト「パブローブ」とは、「パブリック」と「ワードローブ」を組み合わせた造語で、服の図書館のような、だれでも利用できる公共のワードローブを作り出す、ナイロビのマーケットから着想を得たプロジェクトです。本プロジェクトのために募集した服で、熊本市現代美術館内にパブローブの空間をつくりだします。会期中には、服の貸出、リメイク、イベントなど、様々な活動を行います。



西尾美也 《パブローブ》 2013 | Photo by Ryohei Tomita

イベント

■ ドレス・コード + パブローブ

本展の概要と、個人の服を持ち寄り誰もが使える公共のワードローブを作るプロジェクト「パブローブ」についてのトーク

日時	2019年11月2日(土) 午後2時～3時30分
場所	熊本市現代美術館 ホームギャラリー
講師	西尾美也(アーティスト)
参加費	無料

※本イベント時より、プロジェクトメンバーを募集します。

「パブローブ」では ①プロジェクトメンバー ②「勝負服」を募集します！

①プロジェクトメンバー募集

募集期間 11月2日(土)～11月12日(火)
熊本市現代美術館への電話、メールなどでの受付

11月2日以降、熊本市を拠点に活動を開始します。今回の「パブローブ」で募集する服の寄贈の呼びかけを一緒に行ったり、服作りやワークショップの開催など、共にプロジェクトをつくっていきます。

②ここぞというときに着ていた「勝負服」の募集 **募集期間 10月17日(木)～12月2日(月)** 熊本市現代美術館にて受付

募集する服 = 勝負服

(1) 験担ぎとして着ていた服 (2) 意中の相手の気を引こうとして着ていた服 など

服の条件

- (1) 秋冬用の服。(靴や鞄、ベルト、帽子、アクセサリなどの服飾品は除く)
- (2) すぐ着られる洗濯済みの状態の服。
- (3) 返却不要で、無償提供できる服。(譲渡、加工される場合があります)
- (4) 熊本市現代美術館に持って来られる服。(服にまつわる簡単なエピソードをお尋ねします)